まちの話題

まちづくりの目標は国際化

国際リニアコライダー講演会

国際リニアコライダー（ＩＬＣ）の概要や研究内容について理解を深める講演会が５月15日、市文化会館大ホールで行われました。

東北加速器基礎科学研究会が主催したもので、東京大学素粒子物理国際研究センターの山下了（さとる）准教授が「加速器で自然の謎に迫る」と題して講演。会場には市民ら約600人が詰め掛け、ＩＬＣについて理解を深めました。ＩＬＣは、全長31キロメートルの直線加速器の中で宇宙誕生直後の状態をつくり、その始まりなどを解明する研究施設です。山下准教授は、スイスに設置された欧州原子核共同研究所（ＣＥＲＮ（セルン））を例に挙げ「ＩＬＣが北上高地に設置されると、世界中の研究者とその家族ら数千人が生活する国際的な都市となる。彼らは子どもの教育を一番に考えるので、設置後を見据えたまちづくりが重要になってくる」と話していました。

宇宙に行く、宇宙を観る、宇宙を創る時代になると語る山下准教授

えさし

蔵町に人情と味のにぎわい

蔵町モール屋台村が本格オープン

ふらっと寄りたくなる魅力的な屋台が立ち並ぶ

市商工会議所が主催する平成22年度第１回「蔵町モール屋台村」は５月14日から21日までの間、江刺区蔵町モールで開催されました。

蔵町モールの新しい魅力の創出を目的に、昨年11月のプレオープンを経ての本格実施です。市内から７店が出店し、焼き鳥やおでんなどの定番メニューから、江刺名物あんかけうどんや韓国料理など趣向を凝らしたものまで、自慢の味を提供。蔵と屋台が織り成す昔懐かしい雰囲気の中、訪れた人たちは店自慢の料理を酒のさかなに肩を寄せ合い笑顔を見せていました。同屋台村は、ことしの７月と９月にも開催される予定です。

みずさわ

先人の功績たたえ豊作願う

春の後藤寿庵大祈願祭

春の後藤寿庵大祈願祭（カトリック水沢教会主催）は５月30日、福原地区にある寿庵廟（びょう）前などで開かれました。教会関係者や地元住民ら約180人が参加し、寿庵廟までの道のりを練り歩く豊作祈願行列や、キリシタンだった寿庵にささげるミサを行いました。

この催しは、同地区を豊穣（ほうじょう）の地に変えた寿庵の遺徳をしのび、豊作を願って毎年この時期に行われているものです。ここ数年は悪天候のため、屋内での開催となっていましたが、ことしは青空の下での開催となりました。秋には、地元住民による感謝祭が行われる予定で、この地を潤した寿庵に実りを感謝します。

寿庵の遺徳をしのんで行われたミサ

ため池から学ぶ地域の文化

内田ため池周辺生態系保全活動

内田ため池に魚を放流する参加者

胆沢区若柳字西風（なるい）にある内田ため池で５月30日、生態系保全活動の一環として、地元住民や岩手大学の学生ら122人が魚の放流や田植えを行いました。

放流されたのは、メダカやフナ、ヨシノボリなど計1,200匹。これは、池の環境を悪化させる水草や汚泥を除く作業のため、昨年10月に別のため池などへ一時避難していたものです。参加者は、魚の放流や田植えを通じて、ため池が里山の自然や地域文化の核になっていることを学びました。内田ため池は、こうした生態系保全活動などが認められ、ことし３月に農林水産省の「ため池100選」に選ばれています。

いさわ

ころもがわ

何度も訪れたくなる施設へ

歴史ふれあい館に舞台を新設

歴史講談を披露する衣川青凜会会員

奥州衣川歴史ふれあい館（佐藤もと館長）の新装開展お披露目会が５月22日と23日の両日、同館で行われ、展示ホール内に新設された舞台で郷土芸能や歴史講談などが上演されました。これは、同館を運営するＮＰＯ法人天遊塾が、歴史を楽しく分かりやすいものにしようと企画・整備したものです。

初日には、奥州大使の宝井一凜（たからいいちりん）さんや衣川青凜会の会員が歴史講談を披露し、訪れた観客を魅了しました。佐藤館長は「歴史を分かりやすく伝えるためにいろいろ企画し、愛される施設にしていきたい」とあいさつ。今後も、定期的にイベントを行っていく予定です。

農村生活体験で新たな試み

前中と田無四中が交流会を開催

前沢中学校と西東京市立田無（たなし）第四中学校の交流会が５月28日、前沢中学校で行われました。これは、農村生活体験で本市を訪れた田無四中が、地元中学校との交流を希望して実現した新しい試みです。両校の３年生が、レクリエーションや学校紹介、合唱などを通じて、お互いの理解と交流を深めました。

質問コーナーでは、給食がない田無四中から人気の給食メニューを尋ねる質問も。前中生から「前沢牛ステーキ」という回答が飛び出すと、大きな驚きの声が上がりました。最後に両校の代表者によるペナントの交換と握手が行われ、交流会は笑顔で閉じました。

ペナントを交換し友情の握手

まえさわ